参　考

(仮)廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）

未定稿

平成 27 年（2015 年）　　月

廿日市市

目　　次

第１章　総論

１．趣旨

（１）わがまちの特性と策定に向けて
（２）国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」
（３）本市の現況～少子高齢化・人口減少問題～

２．総合戦略の構成と策定体制

（１）総合戦略の対象期間
（２）総合戦略策定にあたっての考え方
（３）策定体制
（４）検討会議での策定状況

３．戦略推進に当たっての体制とマネジメント（調整中）

（１）推進体制
（２）推進に当たってのマネジメント

第２章　基本的な施策の方向性

１．総合戦略における「まちづくりの方向性」

（１）まちづくりの基本理念とめざすまちの姿
（２）大切にする視点
（３）方向性から考えるまちづくり～つなぐ～

第３章　具体的な施策の展開

１．基本目標１

はつかいちの「産業」はニュースにあふれてる!!!
～そこ！に着目するはつかいち～

２．基本目標２

住みたくなる！ちょうどいいまち
～そこ！そこ！のはつかいち～
意外と知らない、住み続けたい魅力いっぱいのまち

３．基本目標３

子育て世代に選ばれ続ける「そこ！」が大事
子ども達、みんなはつかいちの子　～みんなで子育て～
子どものはじける笑顔を共有するはつかいち

４．基本目標４

「そこ！が好き」はつかいち
～はつかいちの心を育む～

５．女性の視点（再掲）

「あなたのそこ！がすてき」
ウーマンライフはつかいち

第４章　廿日市市総合戦略検討会議　報告

第１章　総論

１．趣旨

（１）　わがまちの特性と策定に向けて

本市は、瀬戸内海から中国山地へと広がる雄大な自然に恵まれたまちです。また、沿岸部・内陸部・山間部・島しょ部から構成され多様な地域資源を有しており、このことから、「日本の縮図」「広島県の縮図」とたとえられます。

【沿岸部】

沿岸部には人口・産業・都市機能が集積し、鉄道・道路網により主要都市との交通環境が整っています。

【内陸部】

内陸部は都市との近接性があり、自然資源や歴史資源、スポーツ施設、観光農園等の交流資源に恵まれています。

【山間部】

山間部は中国縦貫自動車道のインターチェンジがあり、また、西中国山地国定公園に指定される自然資源、スキー場や県立公園等の交流資源があります。

【島しょ部】

島しょ部は瀬戸内海国立公園に指定され、世界遺産「嚴島神社」や彌山原始林、ラムサール条約湿地などがあり、文化・自然資源にあふれています。

本市は、このような多様な地域資源を生かしながら、市民一人ひとりが健康で、幸せに住み続けるために、自然豊かな山間部等と都市部とが共生する融合型の都市をつくることをめざすべきと考えています。

一方で、わが国全体において、年々生産年齢人口が減少しており、このことは、本市においても喫緊の課題です。このため、平成２６年１１月に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口減少克服と地域の活性化に向け、全市的に取り組んでいくこととし、素晴らしい地域資源や環境を次世代につなぎ、このまちの未来のため、多くの方と力を合わせ「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

（２）　国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

我が国の人口は、２００８年をピークに、減少局面に入っており、２０５０年には、９，７００万人程度にまで減少するとが想定されています。また、地方と東京圏の経済格差がさらに拡大しており、若い世代の東京圏への集中は増加の一途を辿っています。国は、このような東京一極集中の是正と、地方創生を目的として、平成２６年１１月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。また、同年１２月には、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン及び総合戦略」を策定し、将来にわたり、活力ある社会を創り、維持していくことを目指しています。

➢長期人口ビジョン目指すべき将来の方向

人口減少克服と地方創生をあわせて行うことで、将来にわたり活力ある日本社会を維持することを目指す。

① 若い世代の希望が実現すると、出生率は 1.8 程度に向上する。

② 人口減少に歯止めがかかると、2060 年に 1 億人程度の人口が確保される。

③ 人口構造が「若返る時期」を迎える。

④「人口の安定化」と「生産性の向上」が図られると、2050 年代に実質 GDP 成長率は 1.5～2%程度に維持される。

➢総合戦略基本的な考え方

① 人口減少と地域経済縮小の克服

② まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

→「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻す。

【なぜ、人口減少対策が必要か】

・人口減少・少子高齢化対策

人口減少は、消費の縮小や、様々な分野での人手不足を招くこととなり、事業の縮小などから地域経済へも大きな影響を及ぼすことが懸念されている。

・東京一極集中の是正

若者の東京圏への人口流入は、大学進学や就職が主な要因となっており、過密で出生率が低い大都市に若者が集中することが、日本全体の少子化、人口減少に繋がっていると考えられている。

（３）　本市の現況～人口減少・少子高齢化問題～

本市の総人口は、2005(H17)年に 115,530 人でピーク（国勢調査）を迎えた後、減少に転じています。特に、内陸部や山間部、島しょ部、団地などの地域では、人口減少、少子高齢化が進行しており、沿岸部が一定のダム的機能を発揮していますが、総人口の減少を食い止めるには至らず、このまま推移すれば、2060（H27）年の時点で、66,166 人まで減少すると推計されます。

・人口減少・超高齢化がもたらす本市への影響（推察）

直接的影響

- 経済規模の縮小
- 地域自治組織の縮小
- 労働者(人材)の減少
- 事業者の撤退等による生活サービスの低下
- 税収の低下
- 社会保障関係経費の一層の増加

など

間接的影響

- 公共施設等の維持管理・更新等の問題
- 空き家の増加
- 生活サービスの低下

など

２．総合戦略の構成と策定体制

（１）　総合戦略の対象期間

平成 27（2015）年度から平成 31（2019）年度までの５年間を対象期間とします。

（２）　総合戦略策定にあたっての考え方

総合戦略は、人口減少克服と地域の活性化という課題に、一層の危機感を持って取り組むべき重要な施策であり、次の３つの点を念頭に策定することとしました。

ア）　行政のみならず市民や各分野と危機意識を共有に努める。

イ）　地域にある多様な資源や魅力をしっかりと活かす。

ウ）　個々の主体の行動に加え、相互が連携し実効性をより高め、新たな発想で取り組む。

（３）　策定体制

以上の３つの考え方を踏まえ、市民の思いを受け止め、「いかに住みよいまちをつくるか」というさらに大きな目標に向かうためには、行政のみならず、「廿日市市の創生」に市全体で取り組む必要があることから、地域で活躍されている人やと産官学金労（産業・官公・教育・金融・労働）の専門分野の委員で構成する検討会議を設置しました。

（４）　検討会議での策定状況

２．戦略推進に当たっての体制とマネジメント・・・検討中

（１）推進体制

（２）推進に当たってのマネジメント

➢第２章　基本的な施策の方向性

１．総合戦略における「まちづくりの方向性」

（１）　まちづくりの基本的理念とめざすまちの姿

総合戦略の理念及び理念に基づくめざすまちの姿は、本市の総合的なまちづくりの指針である「第６次廿日市市総合計画（案）（現在策定中）」を踏まえ、次のとおりとしました。

■まちづくりの基本的理念
「市民一人ひとりが幸せに暮らせるまちづくり」
■めざすまちの姿
「そこ！にしかない魅力と住みやすさを感じるまち・はつかいち」

市民一人ひとりが健康で、幸せに住み続けるために、本市にしかない多様な魅力を充分に活用し、自然豊かな山間部等と都市部とが共生する融合型のまちづくりを行い、いつまでも住み続けたいと思える豊かな住みやすいまちをめざします。

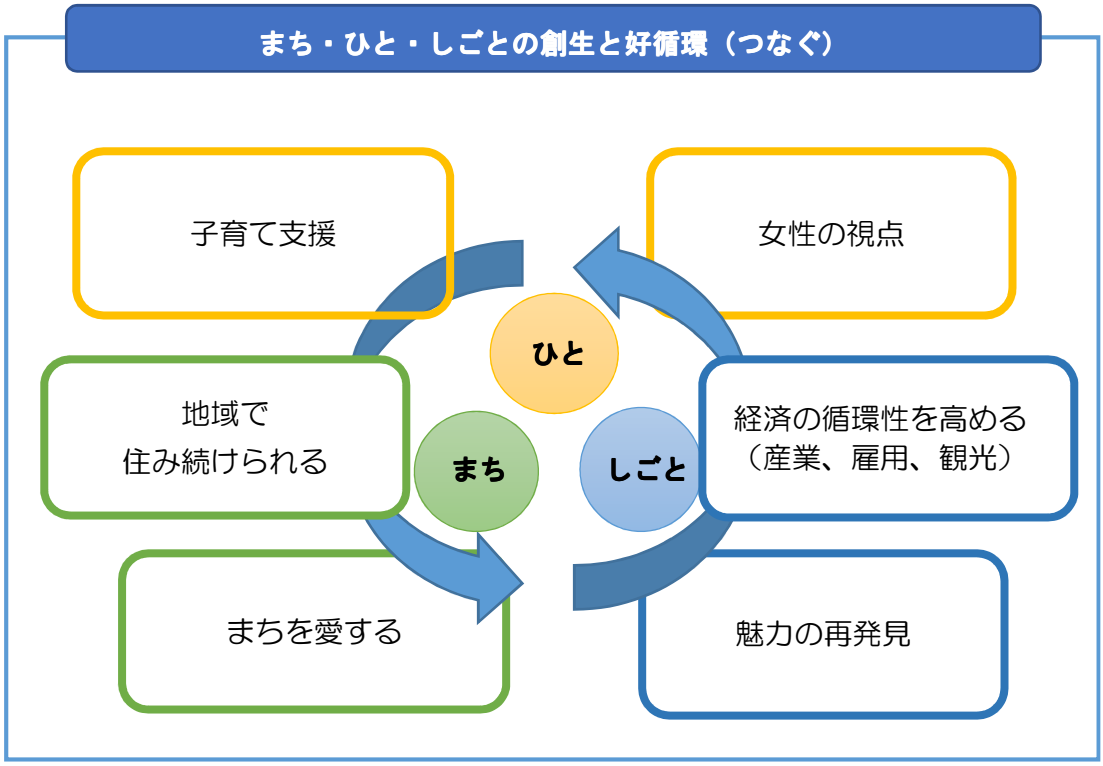
（２）　大切にする視点

- まち全体で子どもを育てるまち
- 女性の視点や感性を活かした、誰もが住みやすいまち

子どもはまちの宝です。既に子どもを育み、たくましく育てている地域がありますが、今後もまち全体で子どもを育て、子育て家族が安心して暮らせるまちをつくることをめざします。
また、女性にとって、暮らしやすく、「このまちが好きだ。住み続けたい」と思ってもらえるまちづくりをすすめ、暮らしが楽しめる、子育てがしやすい、働きやすい、そのようなまちをつくることが、男性、子ども、そしてシニア世代にとっても、暮らしやすいまちにつながると考えられ、女性を応援するまちづくりを行います。

（３）　方向性から考えるまちづくり～つなぐ～

国全体で人口減少が進む中にあって、人口を一定程度維持するには、現在の状況をできるだけ維持するための努力が必要であり、今住んでいる市民、そして、今後住むこととなる未来の市民が、将来にわたって住み続けたいと思うようなまちづくりが必要です。



ア）　子育て家族の暮らしやすいまち

本市では、１０歳代後半から２０歳代で、進学や就職、結婚などを理由とした転出が他のどの年代よりも多い状況(総合計画まちづくり市民アンケートでは、どの世代よりも２０歳代の若者が地域に愛着を感じている結果であった。)です。このため、転出の抑制や、本市出身の若者が、新たな家族と一緒に住み慣れた地域に戻り、次の世代を育てたいと思えるようなまちづくりを行うことが重要です。

イ）　魅力再発見

本市は、多様な特性、地域資源と一定程度の都市機能を備え、また、世界的な観光地である宮島を有するという稀有な環境も有しています。また、政令市である広島市と隣接することから高次な都市機能をも享受でき、これらのことにより「廿日市らしい住みやすい暮らし」

ができることは、大きな強みであり、これらを内外に発信していくことが必要です。

ウ）　地域を愛する人を増やす→若者のＵＩＪターン

住みやすさや愛着は、人間関係や体験によっても、育まれるものだと考えており、人と人がつながり、支えあう取組を進める必要があります。また、都市との近接性を生かした生活スタイルの提案や、市外、県外からの移住がしやすい環境づくりを行うことも必要です。

エ）　地域で住み続けられるまち→生活サービスの確保

人口減少による地域自治組織の衰退は、各方面へ影響を及ぼしつつあり、生活サービスの縮小や空き家問題などは、大きな課題であり、早急な対策が必要です。

また、本市の就業者数のうち、約半数が広島市等市外に勤務しており、（平成２２年総務省「国勢調査」）周辺自治体との広域連携による各種住民サービスの充実を図ることも必要です。

オ）　生活の安定→既存産業への支援、雇用

本市における 1k ㎡辺りの事業所数は、９事業所（広島市 62.3 事業所）であり、人口に対する事業所数や、一定以上の従業員を有する企業が少なく、既存産業の競争力強化や成長分野への支援をはじめ、多様な産業連関による新たな価値の創出を進める必要があります。

一方で、就労の場の創出はもとより、市内での就業を求める人の希望をかなえることができるよう、起業への支援や、多様な働き方の提案などを行っていくことが必要（女性就業者数の本市における全体の就労者数に対する比率は、他市町に比較して高く、また、市内での勤務が多い状況にある。）です。

第３章　今後の施策の方向

施策体系

基本目標 1

はつかいちの「産業」はニュースにあふれている!!!
～そこ！に着目するはつかいち～

①コレできる！新しい仕事のカタチ発掘
②お宝ザクザクはつかいち
③拡散希望！見どころ満載はつかいち
④新たな「人・モノ・コト」を開拓する

基本目標 2

住みたくなる！ちょうどいいまち
～そこ！そこ！のはつかいち～
意外と知らない、住み続けたい魅力いっぱいのまち

①暮らしを楽しむ魅力いっぱいのまち
②ウェルカムはつかいち　～新たな人を呼び込む～

基本目標 3

子育て世代に選ばれ続ける　「そこ！」が大事
子ども達、みんなはつかいちの子～みんなで子育て～
子どものはじける笑顔を共有するはつかいち

①子育ての心配を安心に変える
②まち全体で子どもをたくましく育てる

基本目標 4

「そこ！が好き」はつかいち
～はつかいちの心を育む～

①市民が楽しむ市内旅行　～はつかいちピクニック！～
②住み続けたい！をかなえる
③いつまでも安心して暮らせるまちをつくる

女性の視点

「あなたのそこ！がすてき」
ウーマンライフはつかいち

①しなやかな感性を生かして活躍
②仕事と〇〇の両立支援

基本目標１

はつかいちの「産業」はニュースにあふれている!!!
～そこ！に着目するはつかいち～

①コレできる！新しい仕事のカタチ発掘

目標像	○ ○

ＫＰＩ（重要業績評価指標）	基準値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31

＜関連事業リスト＞

	事業名	概　　要
①	雇用促進事業（シニアの活用）	
②	女性のリカレント教育	
③	地域密着型ビジネス支援事業	高齢化と人口減少の課題を抱える地域の商業とコミュニティの一体的な再生をめざし、地域に密着したにぎわいの場づくりの支援、高齢者の暮らしを支えるコミュニティビジネスや地域課題を解決するソーシャルビジネスの支援、移動販売などの買物支援事業を推進する。

④	起業創業支援事業	地域の人的財産や物的財産（知財）を活用し、創業・就業・業種転換による事業承継等を支援するため、創業支援事業計画の推進とインキュベーション施設の管理運営を行う。
⑤	商店街等活性化事業	地域の経済団体等を通じ、空き店舗の把握と利活用に関する所有者との調整や、空き店舗を活用した地域のアンテナショップや子育て、高齢者支援の活動などの地域密着型ビジネスを行う人（団体）の支援、創業者の支援などを行う。
⑥	地域創業・産業振興サポートセンター事業	市内事業者や起業創業希望者に対するサポートセンターを設置し、経済団体、金融機関、事業に必要な専門的分野の支援者、大学等研究機関及び産業支援機関と連携した支援を行う。また、インキュベーション施設を設置し創業しやすい環境を整備する（公共施設などを活用し、順次、各地域でも施設を整備することも検討）。
⑦	新規ビジネス創出支援事業	多様な移出産業の創出により、目まぐるしく変化する経済情勢に対する耐性や域際収支を向上させるため、産業連関強化塾の開催、新商品開発補助事業、海外向け商品等開発支援（地域ブランドの活用と連動）、地域産品等販売推進フェア（産業振興の視点でのシティプロモーション活動）などを行う。

〇今後検討が必要な事業

② 産業連関塾（つなぎ方・磨き方）（既存事業） 基本目標 1
- 強みを伸ばす「産業の周辺産業」振興（つなぎ方・磨き方）
- 農林水産資源と商工業の連携
- 地ビール、地パン（廿日市小麦をつくる）
- 資源をいかせる「しごと」
- 異業種（トップ企業）お見合いの場

⑨－１ 女性の活躍支援 （しごと支援） 基本目標 1
- 女性の起業（パン、カフェ、雑貨ｅｔｃ）
- コレできる！を集めたチャレンジカフェ，おうちの近くでカフェ！
- 小商い（小さな仕事を組み合わせて収入を確保する）日本一を目指す
- 就職・再就職に向けた学びの場

⑩ ワーク･ライフ・バランス支援 基本目標 1 基本目標 3
- 働きやすい、通いやすい、暮らしやすい
- 待機児童ゼロの継続

⑪ 起業、創業支援 基本目標 1
- 創業支援、ベンチャー支援、小さな会社１０，０００社創立
- 専門家による助言

⑫ 雇用促進 基本目標 1
- シニアの力（ちから）
- 持続可能なプログラムを作る
（仕事として報酬を得ることで、責任とクオリティを上げる）
- 半林(農)半Ｘ

②お宝ザクザクはつかいち

目標像	○ ○

ＫＰＩ（重要業績評価指標）	基準値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31

＜関連事業リスト＞

	事業名	概　　要
①	担い手経営基盤強化事業	農地の集積、生産基盤の整備、人材の確保、資金の支援などを行い、「経営力の高い担い手」の育成を図る。
②	新規農業経営者育成事業	将来にわたって地域農業の担い手を安定的、計画的に確保するため、新規就農希望者の技術習得から経営開始までを総合的に支援する。
③	地産地消推進事業	生産者の計画的な生産体制整備、販路拡大を図るとともに、農商工連携や６次産業化など２次、３次産業との連携による付加価値向上を目指し、農産物の生産者と市内実需者・市民がつながる「地産地消」の仕組み強化する。
④	林道整備事業	林道を整備改良し、効率的な林内路網を形成するとともにアクセス道や生活道としての機能さらには安全性の向上を図る。また、生活道、アクセス道として機能する林道では、法面などの危険箇所を改良する。
⑤	漁場整備事業	効用の低下している漁場の生産力の回復や水産資源の生息場の環境改善を今後も継続的に実施する。

〇今後検討が必要な事業

②－１　資源の活用　　基本目標　1

・カキを加工して海外に！
・畑、くだもの（イチゴ、なし、ぶどう）の木オーナー制度
・（地元材＋外材）×木材業
・構造材＋建具（間伐材＋技術革新＋需要）＋内装材
・家具も、設備も廿日市のメーカーで
・廿日市で育った木で建築物をたてる，建築（リフォーム含む）
・地元の名産を活用した食育
・自然資源を循環（森の学校）

③　土産品のブラシュアップ（地産地消の促進）　　基本目標　1

・宮島のおみやげの８割を地元産にする（宮島の旅館の食事の食材も）

⑦　地域産業への支援　　基本目標　1

・地域産業の競争力強化→地域中核企業への支援

⑧　ブランド力の強化　　基本目標　1

・ブランド力の強化
吉和…ほうれんそう、わさび，佐伯…広島サーモン、長なす、バラ，
廿日市…いちご、かき、あなご、あさり，宮内…メダカ
・山で木を選んでから２，３年待つ（乾燥），木の旅（山→木材→加工）
・将来のＩＴエンジニア、クリエイターを育てる，子ども達がパソコン、プログラム、デザインを学ぶことができる場を創出する（例：石巻市イトナブ石巻），日本中、世界中からエンジニアが集まる，宮島、中山間地区の空家を活用する

③拡散希望！見どころ満載はつかいち

目標像	○ ○

ＫＰＩ（重要業績評価指標）	基準値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31

＜関連事業リスト＞

	事業名	概　　要
①	宮島口地区整備事業	世界遺産・宮島の玄関口として、国内のみならず海外からも多くの観光客が訪れている宮島口地区において、道路整備、渋滞対策、市営駐車場整備などを進め、アメニティの向上、良好な景観形成、賑わい創出を図り、宮島の玄関口として世界の人々を迎えるに相応しい環境を整備する。
②	観光誘客強化事業	関係団体と連携し、既存の観光資源のブラッシュアップを図るとともに、新たなコンテンツを掘りおこし、情報発信を行う。
③	観光資源ネットワーク化事業	宮島口を本市観光の扇の要として機能の充実を図り、宮島のブランド力を活用し、本土側各地域へ波及させる。
④	観光おもてなし向上事業	観光客自身による SNS を活用した世界中への情報発信や、島内周遊の促進を期待し、宮島島内における無料公衆無線 LAN 環境の整備など、外国人の受入態勢の整備を行う。
⑤	産業教育	

〇今後検討が必要な事業

① 体験型見学ツアー　基本目標　1

（産業、市内企業見学、交通、くらし、歴史、インフラ、公園）

・市民全員観光大使
・大人の工場見学
・ナイトツアー
・「その道のプロ」はおもしろい！
・子どもたち（大学生も）の会社見学
・農業、漁業、林業体験ができる
・（海、山、川、田んぼなど）
・廿日市のしくみ（交通、くらし、歴史、インフラ、公園などなど）
・学べるプログラム←自分の生活を支えてくれているもの
・廿日市市民全員観光大使
・地域の野菜等を点でなく線でつなぎ、製品化をめざす

④ 海外からの来訪者の受け入れ態勢整備　基本目標　1

・外国人を呼び込むための工夫（英語を話そう、京都との連携）
・外国人（バックパッカー）に泊まってもらう（ゲストハウス、民泊）
・"子ども廿日市親善大使"，ＫＩ´Ｚチーム結成

⑤ 修学旅行・民泊事業での活用　基本目標　1

・修学旅行（自然利用、先生も安心）吉和泊（スキー）→宮島→帰る
・四国、九州の学校によるスノボ合宿（めがひら），泊まれるスキー場は少ない

⑥ ＩＣＴの活用、ビッグデータの活用

・ICT の活用，データのオープン化

④新たな「人・モノ・コト」を開拓する

目標像	〇 〇

ＫＰＩ（重要業績評価指標）	基準値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31

＜関連事業リスト＞

	事業名	概　　要
①	企業立地促進事業	広島県などと連携して本市への企業誘致活動を行う。また、今後は誘致に関する市場調査も行う。

②	廿日市木材港活性化事業	新都市活力創出拠点に位置付ける木材港について、企業立地や新たな賑わい創出などにより、雇用の創出や定住促進、税収基盤の安定化に資することを目的として、平成２７年度に将来の土地利用のあり方を検討する。
③	新機能都市開発構想整備事業	商業系・業務系・製造系施設の立地誘導によって雇用拡大のほか市民の購買など生活環境を支える多様な都市機能について魅力ある拠点として充実させ、人口交流や獲得に繋がることはもとより広島都市圏西部地域の広域拠点にふさわしい機能形成を図るためにそのポテンシャルを調査検証する。
④	広島南道路の整備促進、臨港道路廿日市草津線整備促進	広島はつかいち大橋の４車線化、木材港西出入路（仮称）～地御前ジャンクション（仮称）間の整備など、広島都市圏西部地域における物流環境整備促進を担う幹線道路のて整備を促進する。
⑤	大都市圏の販路拡大、国外への輸出促進	

基本目標２

住みたくなる！ちょうどいいまち
～そこ！そこ！のはつかいち～
意外と知らない、住み続けたい魅力いっぱいのまち

①暮らしを楽しむ魅力いっぱいのまち

目標像	○ ○

ＫＰＩ（重要業績評価指標）	基準値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31

＜関連事業リスト＞

	事業名	概　　要
①	ひろしまの森づくり事業	荒廃した人工林や里山林の再生を図るとともに、市民協働による森づくりを推進するため、里山林整備、人工林整備、自然体験活動の支援を行う。
②	はつかいち森林資源活用事業	山に放置されたままの森林資源(未利用材)を有効活用する仕組みを構築し、市民参加による森林の適正管理を図る。
③	シティプロモーション事業	交流人口の拡大、定住促進（転入促進及び転出抑制）等を目指し、全市的な人口減少への対策として、マーケティングの概念を活用した施策展開及びプロモーションを実施する。
④	広報広聴事業	観光客の集客及び定住促進を図るため、ホームページをシティプロモーションのメインの広報媒体として、国内外に広く市の魅力を発信する。

〇今後検討が必要な事業

①－１　体験学習のまち～「まなぶ廿日市」「できる廿日市」　基本目標　2

・宮島学習・教育（自然、文化、歴史、人、産業）
・海、山、川の昔のあそび方を知る体験学習
・海をよみがえらせるための市民のプロジェクト参加（藻場を、きれいな海を、魚がいっぱいの海をとりもどせ，横で海水浴）
・野菜の本当の味を知る
・１１万７０００人の「学びの日」制度
・親が廿日市の“良いところ”を語れるようにする
・体験型（宿泊しながらアーチェリー、女子野球）
・季節ごとの体験（スキー、干潟、釣り、神楽、果物狩り）

⑨　女性の活躍支援（つながりネットワーク）　基本目標　2

・明るいまちづくりは女性のピーチクパーチクから
・長屋ＬＩＦＥ，井戸端ネットワーク
・くちこみつながり　Ｎｏ．１
・女性どうしが日本一つながりやすい＝“ワイワイ・ガヤガヤ”できる街を目指す

②ウェルカムはつかいち　～新たな人を呼び込む～

目標像	〇 〇

ＫＰＩ（重要業績評価指標）	基準値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31

＜関連事業リスト＞

	事業名	概要
①	定住推進事業	人口減少への対策として、課題が深刻な中山間地域の定住促進を図る専門職員として、定住支援員を支所に配置し、空き家バンク制度の活用も含めて定住を推進する。将来的には外部機関の設置を目指し、団地や島しょ部の対策も推進する。
②	雇用促進事業（若者への情報提供）	ハローワーク及び県などと連携し、事業者と就業希望者に対する適切な情報提供を行う（県が構築する UIJ ターン人材バンク等も活用）。また、県内はもちろん、首都圏や関西圏などの大学生をターゲットに市内企業への就職に向けたマッチングを行う。さらに、女性や高齢者などが就労しやすい環境づくりについて、関係所属や関係機関と連携して取り組む。

③	公共交通体験事業	バスや電車の駅、停留所の状態を状態を地域の小中学生と利用・観察し、公共交通の大切さと課題解決に生かす。

〇今後検討が必要な事業

⑬　転入支援　　基本目標　2

・はつかいちコンシェルジュ

・転入してきた子育て家族が、地域に溶け込みやすいように

基本目標３

子育て世代に選ばれ続ける「そこ！」が大事
子ども達、みんなはつかいちの子　～みんなで子育て～
子どものはじける笑顔を共有するはつかいち

①子育ての心配を安心に変える

目標像	○ ○

ＫＰＩ（重要業績評価指標）	基準値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31

＜関連事業リスト＞

	事業名	概　　要
①	男女共同参画推進事業（新しい出会いの場づくり）	
②	歩道整備事業、子ども通学路安全対策事業、公園整備事業	通学路や生活道路への歩道や歩行空間の整備や、ＰＴＡ・学校・国・県ほか関係機関と連携した安全啓発看板、路面表示、カラー舗装等、交通安全施設の整備などを行う。また、公園遊具の適正で安全な管理を実施するため、施設の長寿命化対策工事を行い、安全・安心な公園を提供する。
③	はつかいちまるごと子育て応援隊事業	子どもに優しく、子育てに理解のある社会に（高齢者、障がい者にも優しいまちに）なるよう、市のイベントをするときは必ず授乳スペース、おむつ替えスペースを義務化して、発信・情報提供するほか、子育てオープンスペースの実施や、イクメン交流会、婚活千人プロジェクトなど、結婚・出産・子育てに関する環境整備やイベント実施を進める。

④	母子保健事業（こんにちは赤ちゃん事業）	地域ごとの母子保健推進員が全家庭を訪問して、生活状況を観察し育児状況や、心身の健康状態等をうかがいながら、予防接種手帳や育児相談の情報等を提供する。
⑤	子育て支援センター管理運営事業（子育て支援センターの開設）	子育て支援センターの整備について、公立保育園の空き室活用や、民間保育園の開設に合わせた併設など、今後の保育の動向を見ながら設置場所の検討を行う。
⑥	児童福祉一般事業家庭児童相談室管理運営事業 （児童虐待の防止、子育て相談の実施）	家庭児童相談室や子育て支援センター等、身近な場所での児童に関する相談事業を実施する。また、年々増えている相談に対応するため、家庭児童相談員を増員する。（H28 より 1 名増員。H30 よりさらに 1 名増員）

〇今後検討が必要な事業

⑭　出産への支援　　基本目標　3

・子どもを生み育てることの大切さを学ぶ
（心とカラダづくりの必要性）

⑮　子育て支援（環境）　　基本目標　3

・子どもが産まれたら、市民全員から祝福メッセージが届く
・ベビーカーを押してあるきやすい環境の整備
・店舗にベビーカー置き場を義務づけ
・小児医療の充実
・中山間地域における通学支援
・３世代同居の促進（親元近居）
・廿日市市民全世帯が「子ども１１０番」

⑯　子育て支援（ネットワーク）　　基本目標　3

・1 万人の子育てミーティング
・イクボス・イクメン男子の多い町,
・ＨＡＴＳＵＫＡＩＣＨＩ　ＰＡＰＡＳネットワーク

②まち全体で子どもをたくましく育てる

目標像	○ ○

ＫＰＩ （重要業績評価指標）	基準値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31

＜関連事業リスト＞

	事業名	概　　要
①	働く場における男女共同参画推進事業	働く場において男女がともに均等な機会に恵まれ適正な評価が受けられるように、企業の規模に関わらず関係法規などの周知や格差是正などのポジティブアクションを取るよう企業への働きかけを行う。
②	ワーク･ライフ･バランス推進事業	社会全体において「ワーク・ライフバンス」の意義や重要性、働き方見直しに関する啓発を推進し、男性の育児参加を促進するため、イクメン企業同盟ひろしまの活動等を支援する。
③	男女共同参画を進めるための人づくり事業	男女共同参画についての理解を深めることができるよう市民への積極的広報・啓発を行う。また、子どものころから男女共同参画の視点にたった教育を提供するため、教職員や保育士、保護者に向けての研修・啓発を行う。
④	保育園整備事業	児童の安全確保、保育環境の改善に向け、公立保育園の老朽化対策として、平成 28 年より池田保育園の改修を行う。 0～2 歳の待機児童の解消を目指し、民間保育園の誘致･設置を推進し、保育の量の拡充を図る。
⑤	保育園管理運営事業（延長保育、一時保育、休日保育の実施）	多様な保育サービスの提供と保育全体の質の向上を図るため、延長保育、一時保育、休日保育を実施する。また、休日保育の実施に当たっては、公立保育園での受入れが困難であるため、民間保育園での実施を推進する。

⑥	児童会管理運営事業（年齢の拡充、利用時間の延長）	留守家庭児童会について、利用対象学年が小学校 3 年生までとなっており、4 年生以上については放課後の居場所がないことから、年齢の拡充を図る（H27～）とともに、開所時間を延長する（H28 以降）。
⑦	学校支援地域本部事業	学校と地域の風通しのよい関係やそれぞれの学校・地域ごとに子どもを見守る新たなかたちをつくるため、地域における学校の応援団である「学校支援地域本部」の設置に取り組み、その運営について、補助、助言、活動支援を行う。
⑧	子どもの夢づくり事業（トップアスリート養成事業）	子どもたちの「夢」を聞く場を設け、子どもたちが自ら企画して実践する。また、各界の道を究めた人を招き、話を聞き、実際に技術を体験し、きっかけ作りを行い、その後も連携をとり、意欲、実践力を育てる。さらに、子どもの夢を実現するための支援者を増やす。

〇今後検討が必要な事業

・子どもたち（大学生も）の会社見学（再掲）
・“子ども廿日市親善大使”ＫＩ´Ｚチーム結成（再掲）

基本目標４

「そこ！が好き」はつかいち
～はつかいちの心を育む～

①市民が楽しむ市内旅行　～はつかいちピクニック！～

目標像	○ ○

ＫＰＩ（重要業績評価指標）	基準値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31

＜関連事業リスト＞

	事業名	概　　要
①	観光資源ネットワーク化事業（再掲）	宮島口を本市観光の扇の要として機能の充実を図り、宮島のブランド力を活用し、本土側各地域へ波及させる。
②	学校給食食育推進事業	学校給食施設の再編整備により、各地域の学校給食センターを食育の拠点として、各小中学校への訪問指導をさらに充実するとともに、市民向けの食に関する情報発信や市民向け講座を実施する。
③	文化財保存･保護事業	郷土の文化を継承し守ることができるよう、神楽等地域の伝統芸能を継承する活動を支援する。
④	ふるさと学習推進事業	社会科副読本「わたしたちのまち　はつかいち」を印刷製本し、廿日市市立小学校に在籍する３，４年生に配付し、廿日市市についての学習の充実を図るとともに、例えばけん玉など１つの題材を通して、はつかいちの地域の特色について具体的に学ぶ小学校の取組を支援する。

⑤	けん玉普及促進事業（木工製造業支援事業）	けん玉の聖地として、けん玉製造の技術継承（技術者の育成）、木材利用センターの設備や体制の整備、けん玉のデザイン性の向上、産学官連携による新たな活用法の検討、県内だけでなく首都圏などでの販路開拓、知的財産権の取得などを行う。
⑥	けん玉イノベーション事業～プロジェクトK～	「けん玉」というオンリーワンの地域資源を活用し、一家一けん玉運動（転入者に配布するなど）の展開、高齢者の健康増進や子どもの学力（集中力）向上ツールとしての講座等の開催、効能の科学的検証、けん玉条例の制定、けん玉パフォーマーの育成など、取り組みを進め、市民一人一人が愛着心や一体感を高める。
⑦	高齢者と小学生の交流事業（けん玉大会）	子どもと高齢者がペアを組んで大会に出場する「けん玉ＣＵＰ in はつかいち」の開催など、世代間交流をしながら文化を継承することにより、人と歴史の両方に親しみを持つことができ、「郷土愛」の芽生えにつなげるとともに、「けん玉の街はつかいち」としてまちのＰＲにつなげる。
⑧	自然体験活動推進事業	佐伯や吉和の児童が自然体験学習に取り組む場の支援をし、また、都市部の児童が中山間地域に興味を持つよう、交流事業を行う。

〇今後検討が必要な事業

①－２　市民が楽しむ市内旅行～はつかいちピクニック！　　基本目標　4

・廿日市２０名山×瀬戸内ｆｉｎｄｅｒ
・はつかいち版　ｆａｒｍ　ｔｏ　ｔａｂｌｅ
・津和野街道，廿日市一周トレイルラン，宮島トレイルラン
・自然史博物館（広島県にはない）
・川でダイビング！（オオサンショウウオ探しｅｔｃ）
・桜がきれい（阿品公園、桂公園、宮島、大峰山），海（宮島）から見る廿日市
・ツアープログラムがお金を生むしくみ作りが大切
・カープキャンプ（スポーツ公園）
・自転車でどこでもいける？！自然をたのしむ
・ふるさと自然体験学習の推進

⑰　愛着教育　　基本目標　4

・廿日市の未来に思いをはせるような教育

②住み続けたい！をかなえる

目標像	○ ○

ＫＰＩ（重要業績評価指標）	基準値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31

＜関連事業リスト＞

	事業名	概　　要
①	公共交通体験事業（再掲）	バスや電車の駅、停留所の状態を状態を地域の小中学生と利用・観察し、公共交通の大切さと課題解決に生かす。
②	市街地整備関連調査事業(都市サイン等の整備)	都市サインについて、適切な場所に設置し、円滑な移動支援を行う。また、既設置の都市サインについては、市街地状況変化に対応した修正を行う。
③	バス路線維持補助金	中山間部と沿岸部を結ぶ広電バスの広域生活路線や、宮島島内乗合タクシーなど地域内民間路線を確保・維持するため、「廿日市市バス運行対策費補助金交付要綱」に基づき、運行に係る収支差額の全部又は一部を補助する。
④	自主運行バス運営事業	沿岸部では２形態、中山間部では３形態の自主運行バスを運行している。運行については、交通事業者と運行協定を締結し、運行経費と運賃収入等の差額について運行負担金を支出する。
⑤	地域公共交通再編事業	交通政策基本法、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、「地域公共交通網形成計画」及び「再編実施計画」を策定する。利用状況の悪化から撤退の申し出がある広電の一部路線については、本市バス交通の全体再編のなかで、広電撤退後の代替交通や、地域主体による移動手段確保の支援策を検討する。また、乗継ぎの利便性向上に向けた待合施設の整備や、市自主運行バスへのＩＣカード導入、交通結節点等へのバスロケーションシステムを活用したバス停表示機設置など、バス利用環境の改善に取り組む。

⑥	中山間地域小・中・高連携事業	小規模校である佐伯高等学校の活性化・進学者数の増加を目的とし、佐伯・吉和地域内の小・中・高が各種事業や行事など連携を図ることにより、地元高校への進学率がアップするとともに、地域内の各種団体との連携も踏まえ、中山間地域の活性化を図る。
⑦	中山間地域活動支援事業	人口減少や高齢化等の著しい過疎・中山間地域に地域支援員を配置し、地域点検及び地域での話し合いの促進、地域行事・活動、その他地域おこしの支援等を通じて、地域力の維持・強化を図る。
⑧	協働推進事業	市民、市民活動団体、ＮＰＯ、公共的団体、事業者、市などの多様な主体による地域課題を解決していくための協働提案事業制度を導入する。また、多様な主体のつながりを支援する中間支援機関の機能を強化する。
⑨	地域住民自治組織支援事業	新たな助成制度・支援制度の設計・創出や、地域提案型協働事業助成金の効果的な活用事例発表会の開催、地域福祉など分野（テーマ）に応じて地域で実際に活躍する担当者の情報交換交流の場としての分野別円卓会議の開催、28 地区ごとに地域の特性・資源・地域住民自治組織の現状など地区診断の元となる地区カルテの作成など、地域の自治力の向上と多様な主体のパートナーシップの形成を図る。
⑩	賑わい施設整備事業	市内産業の活性化や地域内外の交流の活発化、地域全体の活力向上に向け、大野地域における賑わい拠点の検討・整備を行う。

③いつまでも安心して暮らせるまちをつくる

目標像	○ ○

ＫＰＩ（重要業績評価指標）	基準値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31

＜関連事業リスト＞

	事業名	概　　要
①	歩道整備事業、子ども通学路安全対策事業、公園整備事業（再掲）	通学路や生活道路への歩道や歩行空間の整備や、ＰＴＡ・学校・国・県ほか関係機関と連携した安全啓発看板、路面表示、カラー舗装等、交通安全施設の整備などを行う。また、公園遊具の適正で安全な管理を実施するため、施設の長寿命化対策工事を行い、安全・安心な公園を提供する。
②	地域医療拠点整備事業	団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年問題や少子高齢化など、時代に即した医療提供体制を確保するため、厚生連、JA 広島総合病院と協力し、JA 広島総合病院に隣接する商業施設跡地に地域医療拠点を整備する。
③	吉和診療所整備事業	吉和診療所について、地元からの要望や公共施設の再編計画等も考慮し、吉和福祉センター敷地内への移転・整備を予定している。
④	吉和地域高齢者施設整備事業	高齢化が進む吉和地域において、住み慣れた地域で暮らし続けることを可能とするため、夜間でも安心して暮らせる施設（泊まりのできる施設）を整備する。
⑤	自主防災活動推進事業	防災相談員の配置し、地域の自主防災活動のリーダー（防災士）の育成、自主防災組織で活動する際に必要な資機材の購入費用と活動費用の一部補助、防災講演会の開催などにより、市民の防災意識と地域の防災力の向上を図る。また、「廿日市市津波避難計画」の策定後、順次、地区ごとの地域津波避難計画の策定に取り組む。
⑥	消防団入団促進事業（消防団活動運営事業）	平成 26 年 7 月 25 日から消防団女性消防隊が設立されており、今後も男性消防団員と同様に女性消防団員を継続して入団促進を行う。

女性の視点（再掲）

「あなたのそこ！がすてき」
ウーマンライフはつかいち

①しなやかな感性を生かして活躍

目標像	○ ○

ＫＰＩ（重要業績評価指標）	基準値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31

＜関連事業リスト＞

	事業名	概　　要
①	地域密着型ビジネス支援事業（再掲）	高齢化と人口減少の課題を抱える地域の商業とコミュニティの一体的な再生をめざし、小規模事業者の経営と地域住民の暮らしを持続させる地域に密着したにぎわいの場づくりの支援、高齢者の暮らしを支えるコミュニティビジネスや地域課題を解決するソーシャルビジネスの支援、最寄品を中心とした移動販売などの買物支援事業の推進などを行う。
②	起業創業支援事業（再掲）	地域の人的財産や物的財産（知財）を活用し、創業・就業・業種転換による事業承継等を支援するため、創業支援事業計画の推進とインキュベーション施設の管理運営を行う。
③	商店街等活性化事業（再掲）	地域の経済団体等を通じ、空き店舗の把握と利活用に関する所有者との調整や、空き店舗を活用した地域のアンテナショップや子育て、高齢者支援の活動などの地域密着型ビジネスを行う人（団体）の支援、創業者の支援などを行う。

④	地域創業・産業振興サポートセンター事業（再掲）	市内事業者や起業創業希望者に対するサポートセンターを設置し、経済団体、金融機関、事業に必要な専門的分野の支援者、大学等研究機関及び産業支援機関と連携した支援を行う。また、インキュベーション施設を設置し創業しやすい環境を整備する(公共施設などを活用し、順次、各地域でも施設を整備することも検討)。
⑤	新規ビジネス創出支援事業（再掲）	多様な移出産業の創出により、目まぐるしく変化する経済情勢に対する耐性や域際収支を向上させるため、産業連関強化塾の開催、新商品開発補助事業、海外向け商品等開発支援（地域ブランドの活用と連動)、地域産品等販売推進フェア（産業振興の視点でのシティプロモーション活動）などを行う。
⑥	地域での活躍（コミュニティや消防団）	平成 26 年 7 月 25 日から消防団女性消防隊が設立されており、今後も男性消防団員と同様に女性消防団員を継続して入団促進を行う。
⑦	女性のリカレント教育（再掲）	

⑨－１　女性の活躍支援　（しごと支援）　　基本目標　1

・女性の起業（パン、カフェ、雑貨ｅｔｃ）
・コレできる！を集めたチャレンジカフェ，おうちの近くでカフェ！
・小商い（小さな仕事を組み合わせて収入を確保する）日本一を目指す
・就職・再就職に向けた学びの場

②仕事と〇〇の両立支援

目標像	〇 〇

ＫＰＩ（重要業績評価指標）	基準値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31

＜関連事業リスト＞

	事業名	概要
①	働く場における男女共同参画推進事業（再掲）	働く場において男女がともに均等な機会に恵まれ適正な評価が受けられるように、企業の規模に関わらず関係法規などの周知や格差是正などのポジティブアクションを取るよう企業への働きかけを行う。
②	ワーク･ライフ･バランス推進事業（再掲）	社会全体において「ワーク・ライフバンス」の意義や重要性、働き方見直しに関する啓発を推進し、男性の育児参加を促進するため、イクメン企業同盟ひろしまの活動等を支援する。
③	男女共同参画推進事業（再掲）	男女共同参画についての理解を深めることができるよう市民への積極的広報・啓発を行う。また、子どものころから男女共同参画の視点にたった教育を提供するため、教職員や保育士、保護者に向けての研修・啓発を行う。
④	保育園整備事業（再掲）	児童の安全確保、保育環境の改善に向け、公立保育園の老朽化対策として、平成 28 年より池田保育園の改修を行う。0～2 歳の待機児童の解消を目指し、民間保育園の誘致･設置を推進し、保育の量の拡充を図る。
⑤	保育園管理運営事業（延長保育、一時保育、休日保育の実施）（再掲）	多様な保育サービスの提供と保育全体の質の向上を図るため、延長保育、一時保育、休日保育を実施する。また、休日保育の実施に当たっては、公立保育園での受入れが困難であるため、民間保育園での実施を推進する。
⑥	児童会管理運営事業（年齢の拡充、利用時間の延長）（再掲）	留守家庭児童会について、利用対象学年が小学校 3 年生までとなっており、4 年生以上については放課後の居場所がないことから、年齢を拡充を図る（H27～）とともに、開所時間を延長する（H28 以降）。

〇今後検討が必要な事業

⑨　女性の活躍支援（つながりネットワーク）　　基本目標　1

・明るいまちづくりは女性のピーチクパーチクから
・長屋ＬＩＦＥ，井戸端ネットワーク
・くちこみつながり　Ｎｏ．１
・女性どうしが日本一つながりやすい＝“ワイワイ・ガヤガヤ”できる街を目指す

第４章　廿日市市総合戦略検討会議　報告

〇検討会議委員（名簿）

〇検討会議意見